

H23 授業改善プラン

【国 語】

○ 児童の状況

- ・国語に対する関心意欲は高く、真面目に取り組もうという意欲をもっている児童が多い。反面、国語は難しいと感じている児童も見られ、能力差が現れている。
- ・学習振り返り調査の結果、基礎・基本の定着が見られ、基礎教科としての国語の活用能力も育ってきていることが伺える。
- ・「言語についての知識・理解・技能」における漢字の獲得についても読みの習得率はよいが、ローマ字に関しては読むことも書くことも不十分である。ローマ字学習が一過性になっていることが分かる。また、接続語の問題では多くの児童が正しく使えていない。
- ・「書く能力」については報告文を書くことは苦手な児童が多い。また、事実と意見を区別して書くことや、いろいろな文章の書き方が十分とはいえない。
- ・「話す・聞く能力」については、自分の立場や考えを明確にしなが、自分の意見を述べるのが苦手な児童が多い。

○ 指導についての課題

- ・「話すこと・聞くこと」では、自分の立場や意図をはっきりさせ、計画的に話し合う指導を充実させること、話の要点を聞き取り効率よくメモを取ること、聞き手にとって分かりやすいスピーチを行ったりするための言語活動を充実させることが必要である。
- ・「書くこと」では、目的や課題に応じて情報を取り出し、条件に合わせて書く活動を充実させる必要がある。そのためには、「読むこと」と関連付けて、目的や意図などに応じて文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえたり、書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしなが、読んだりする指導が必要である。
- ・「読むこと」では、物語の登場人物相互の関係を押さえ、心情を把握することに課題が見られる。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、敬語の適切な使い方について国語科での意図的な指導と併せて、具体的な事実に基づいて日常的に正しく用いる態度と習慣を養い、定着を図ることが必要である。また、漢字の読みはできているが、漢字の記述や接続語の使い方については不十分である。引き続き辞書の利用を習慣付ける指導が必要である。

○ 具体的な授業改善に向けての方策

(1) 話すこと・聞くこと

- ・「話すこと・聞くこと」については、相手意識や目的意識をもって話したり聞いたりする力を育てていく。朝の会に1分間スピーチを位置付けたり、グループの話し合いの時間を計画的・継続的に、教科の中に組み入れたりする。
- ・落ち着いて話を聞く習慣を身に付けさせることが大切なので、1年生の段階から、朝の会や帰りの会で、日常生活での気づきをスピーチさせ、関心をもって聞くことを意識付けたり、その話に対して質問させたり、感想をもたせたりする指導に力を入れる。

(2) 書くこと

- ・低学年の時より書く楽しさを味わわせるような指導の工夫をする。
- ・短文作りなどで書くことへの抵抗感をなくしながら、書く機会を継続的に設定する。高学年においては、主題や要旨が明確に表れる文章を書く活動を重ねると共に、それらを交流する機会を設けていく。また、説明文・報告文・意見文などそれぞれの書き方を丁寧に指導する。

(3) 読むこと

- ・ 図書の日間や朝読書を中心に読書の時間を確保し、読書の楽しさを味わわせながら、文字や文章に親しむようにさせる。(6, 10月に全校読書月間を実施)
- ・ 「読むこと」では、文章に親しむ経験を積み重ねた上で、長文の読解指導に力を入れていく。物語文では叙述に即して登場人物の様子や心情を読み取る指導を工夫し、説明的な文章では、主題や要旨をまとめる学習に力を入れる。また、それぞれの書き方による表現方法の違いに気づかせる必要がある。

(4) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・ 漢字の読み書きについては日常的に小テストを行い、目的意識をもって学習する姿勢を育てるとともに、楽しんで学習できるようにクイズやゲーム的要素を取り入れるなどの工夫をする。
- ・ 意味が難しい語句については、文脈から想像する能力を付けるとともに、辞書を活用できるように、辞書の使い方の指導を丁寧に行う。(辞書使用入門期)
- ・ ローマ字の学習時間は限られているので、コンピュータでのローマ字入力に慣れさせたり、日常的にローマ字で書いたりする場を設定していく。

(5) その他(言語環境の整備)

- ・ 正しい日本語の使い手の育成を意識し、国語科の学習だけでなく、日常の言語生活の中で正しい言葉遣いの態度と習慣を養い、定着を図る。
- ・ 校内の言語環境を大切に、壁面の掲示・教室内の話形の掲示等の工夫を行う。
- ・ 教師自身も言語感覚を磨き、児童の言葉遣いに敏感になっていけるよう研修を行う。
- ・ 保護者会等で家庭における言語環境の大切さを啓蒙していく。
- ・ 各フロアに、異学年の作文などを掲示し合い、良さを認め合う環境づくりをする。

【社 会】

○児童の状況

「中学年」

- ・簡単な記号、方位の理解が不十分である。
- ・町探検で得た情報から町の特徴を捉える力に偏りがある。
- ・初めて学ぶ教科であることから、多くの児童が興味をもって意欲的に取り組んでいる。
- ・地図を読み取る力はまだ不十分である。
- ・東京都の周りの県、地理について理解が十分ではない。
- ・複数のグラフを読み取ったり、資料と事象を関連づけて読み取ったりする力が不足している。

「高学年」

- ・グラフの読み取りや資料の活用はある程度できるが、そこから深く事象を読み取る力が不足している。
- ・産業の様子や特色を理解する力が十分ではない。
- ・歴史学習に興味をもち、歴史的事象に関心をもって学習に取り組める児童が多い。
- ・資料から事実をある程度把握できるが、複数の事実を把握する際に注目しなければならないポイントやその関連性について気付けない児童が多い。
- ・時代の背景を押さえた上で、歴史的事象の起こった要因や人物の働き、また歴史的事象が社会に与えた影響について考えるに至っていない児童が多い。

○ 指導についての課題

- ・地図の読み取り（縮尺、地図記号等）については、その場限りでなく、様々な単元の中で機会をつくって指導しているが、普段の生活や事象と関連しにくいいため定着が難しい。
- ・グラフの読み取りについては、グラフから読み取れる数字だけでなく、社会的な事象や推移の原因、これからの移り変わりについて予測させるなど、論理的な思考や判断を身に付けさせていく指導をしているが、習熟させることが難しい。
- ・歴史学習では地図、年表、図、文章資料などの活用を図りながら学習することが多く、用いる資料によって、歴史的事象の事実を正確にとらえさせることができる。そこで、児童にとって関心を高め、わかりやすい資料を精選する必要がある。
- ・歴史学習をまとめる際に、学習した内容を並べたり、書き写したりするだけでなく、そこから何を自分は感じたのか、人物や事象との関連の中で読み取れた事は何か、そこで考えられたことは何かをまとめるようにさせる必要がある。

○ 具体的な授業改善に向けての方策

- ・地図記号、都道府県名、東京23区名といった基礎的な事柄を身に付けさせる指導を繰り返し行っていく。単元で扱う都道府県、地名はその都度地図帳で確かめたり、地図記号や方位などのプリント、カードを使って覚える活動を取り入れたりして、正確に読み取る技能を身に付けさせていく。
- ・教室環境を整備し、児童が日常的に地図などに触れられるようにする。
- ・グラフや資料の読み取りでは、情報を整理し、共通点や相違点を考えるなど、意味を考える授業を丁寧に行っていく。それらが示す事実を確認し、調べ学習などに生かせるように展開していく。
- ・体験的な活動を通して、実感や体験を基に社会認識を深めさせるようにする。
- ・身に付けた基礎的・基本的事項を活用しながら、課題を追究する授業を進めていく。更に社会的事象について考えを深められる学習のまとめを意図的・計画的に実施していく。
- ・グラフを正確に読み取る力をつけるために、表題が何を表しているのか、時間的な推移がある場合は何が変化しているのか、一つの観点に絞って注目し、考えさせる。他のグラフとの関連も細かに見ることができるようになる。
- ・「事実をとらえさせる」「関連を見いださせる」「要因や影響を推察させる」指導を積み重ねて、児童の思考力を高めていく。
- ・例えば、三人の武将についてそれぞれの気質や歴史的事象を学ばせるだけでなく、この時代の事象が三人の

誰が一番関係が深いのか、織田信長がキリスト教を保護することによって、世の中にどんな変化があったのか、といったように考えさせていく。

- 用語は資料を活用しながら、ていねいに教えていく。

【算 数】

○ 児童の状況

- ・問題解決学習に継続して取り組んでいるため、算数に対する関心意欲は高い。しかし、学習意欲が持続しない児童もいる。
- ・学習振り返り調査の結果、ほぼ基礎基本の定着がみられている。
- ・数と計算については、よく理解している児童が多いが、計算のきまりについては理解の個人差が大きい。
- ・自分の考えを説明したり表現したりすることに苦手意識をもち、筋道を立てて説明できない児童が多い。
- ・学習の理解の個人差が大きい。特に高学年になるにつれ顕著である。

○ 指導についての課題

- ・筋道を立てて、論理的に考えていくこと。
- ・自分の考えを進んで表現しようとする事。
- ・一人一人の個人差を減らしていくこと。
- ・最後まで学習に取り組もうとする学習意欲を持続していくこと。

○ 具体的な授業改善に向けての方策

- ・校内研究を中心に、授業作りに取り組む。
- ・一時間の授業の流れを「課題把握→解決の計画→自力解決→発表と検討→まとめ」とし、問題解決の過程を重視した算数的活動を生かす授業づくりをする。
- ・文章題の立式時(演算決定)には、数直線図のよさを実感させるとともに、言葉の式を使ったり、簡単な整数への置き換えを行ったり、図や式を使って考えたりするなど、既習の解決のしかたを生かすようにする。
- ・作業的・体験的な活動などの算数的活動を多く取り入れ、各内容の理解がより深められるようにする。
- ・ヒントカードを活用し、一人一人に自分の考えをもたせる。また、ノートにまとめた考えを相手を意識して工夫して伝えたり表現したりする場を設定する。
- ・ホワイトボードなどを活用し、自分の考えや友達の考えを比較検討する場面を作って多様な考え方があることを知るとともに、どう考えていけばよりよく解決できるかを話し合う。それによって、筋道を立てて考える力や内容の理解を深めていく。
- ・知識・技能を確実に定着させたり、生活に活用したりできるようにするために、およその数を見積もるなど、数量や図形についての豊かな感覚を育成する指導を充実させていく。
- ・整数、小数、分数に共通した「計算のきまり」の指導を重視し、形式的な公式の指導ではなく意味をしっかりと理解するための時間を取り、計算のきまりの利便性、有用性についても感じ取らせていく。
- ・基礎基本の確実な定着をはかるために、成丘タイム(朝学習)や、なりおか学習教室(放課後)、サマースクール(夏季休業中)を活用して反復練習をする。
- ・少人数指導の特長を生かし、個に応じた指導の充実を図るとともに、少人数担当と担任が連携した指導を行う。
- ・単元の終わりには、児童の習熟度に合わせた補充・発展学習の時間を確保する。

【理科】

○ 児童の状況

- ・提示された課題に対しては、よく考え、取り組むことができる。
- ・実験や観察など、進んで取り組むことができる。

○ 指導についての課題

- ・自ら課題を見つけ出すことや、実験観察から結論を導き出したり、自分の考えを発信させていくことが課題である。

○ 具体的な授業改善に向けての方策

- ・時期にあった適切な教材を選び、児童の発達段階に応じた単元配列を工夫する。
- ・課題発見→予想→解決のための工夫→実験・観察→考察というサイクルを学習の中で確立する。
- ・理科室を整備するとともに、図書教材やインターネット環境などを作り上げ、児童が主体的に学べるようにする。

○ その他（補充・発展指導計画等）

- ・学年担任共同で教材の準備や事前実験を行い、指導内容や指導方法を更に高めていく。

【生活】

○ 児童の状況

- ・体験型の活動を好み、生き生きと活動する児童が多い。
- ・進んで活動することはあまり得意ではなく、指示を待って活動する児童が多い。

○ 指導についての課題

- ・植物を育てたり、生き物とかかわる等の経験が少ない児童が多いため、積極的に体験型の活動を取り入れる工夫をする。
- ・異年齢同士の交流、ルールのある集団での活動を楽しめる児童を育成する。

○ 具体的な授業改善に向けての方策

①自然認識にかかわって

- ・草花の栽培や生き物の世話を通じて（生長、飼育の記録作り、観察スケッチと、記録文作り、収穫作業等）自然の法則を理解できるようにする。
- ・観察の視点を明確にすることで、ものを正確に見る力がつくようにする。

②社会認識にかかわって

- ・町探検を通じて、町の様子に目を向けたり、そこに暮らす人々にインタビューすることなどで、自分たちの住んでいる町への関心を高め、観察する力を身につける。

③社会性と人間関係について

- ・異年齢活動「ワンツータイム」（1．2年との共同活動）を体験することで、相互活動の大切さを学べるようにする。

④個と集団にかかわって

- ・自分で考え、想像した物を作り出す力を育てるために、手作りのおもちゃなどを作る活動を取り入れる。
- ・作業をする中でお互いに助け合ったり、学び合ったりする体験をさせる。
- ・「遊び」を通して、集団と個人の間関係を学ばせる。
- ・ルールの尊重、遊びなどの技能習得のために、進級カードや場の設定などの工夫をする。

【総合的な学習の時間】

○ 児童の状況

- ・各学年で環境をテーマにした学習活動を取り入れ、様々な体験活動を積み重ねてきている。
- ・パソコンを活用して情報を収集・整理・発信する活動に慣れ、意欲的に取り組んでいる。
- ・異学年間での発表の場を設け、伝える相手を意識した発表の工夫をしたり、上級生の発表から活動内容や発表の仕方を学んだりしている。

○ 指導についての課題

- ・事前に作成した指導計画を基に活動を進めながらも、児童の興味・関心や創意工夫を生かした学習活動を展開していくこと。
- ・一人一人が課題を見つけて解決しようとする学習活動を展開する場合、活動内容、活動場所等が多岐にわたり、個に応じた指導が難しい。
- ・インターネットを活用した調べ学習を積極的に取り入れているが、手に入れた資料を読み込み、自分の言葉でまとめる意識をもたせることが必要である。

○ 具体的な授業改善に向けての方策

- ・学校図書館の活用においては、司書と連携を図り、資料を収集し、調べ学習を充実させていく。
- ・校内では学習指導講師を活用し、学年での指導も考慮する。また、地域の人材を積極的に活用するなど、個に対応し、児童が安全に充実した活動に取り組める場を設定できるように計画する。
- ・様々な発表方法を提示し、異学年、保護者、地域の方々などを対象にした発表の場を積極的に用意することで、伝えることを意識した学習のまとめ方、発表の仕方を工夫できるようにしていく。また、その際に使用した作品を校内に掲示し、相互に学び合える場も設定する。

【音 楽】

○ 児童の状況

- ・音楽への関心・意欲・態度は、音楽を楽しもうとする児童が多い。歌うことが好きで、全身で歌おうとする児童が多いが、苦手意識をもっている児童もみられる。器楽は全体的に意欲が高いが、個人の技能面に差が見られる。
- ・音楽的な感受や表現の工夫は、ねらいやポイントを示すことで工夫しようとする児童が多い。
- ・表現の技能は、友達と合わせる喜びや達成感を感じ始めている児童が多い。歌唱では、頭声発声の仕方を工夫し、豊かな響きのある声で歌おうとする児童が増えているが、声を張り上げて歌う児童もいる。器楽では、タンギングや音色に気をつけて演奏しているが、個人の技能面に差が見られる。
- ・鑑賞の能力では、意欲的に友達の声に耳を傾け、友達の歌声のよさに気づくことができる。また、音楽の特徴を感じ取って聴いたり、ポイントを絞って鑑賞したりすることができる。

○ 指導についての課題

- ・歌唱では、楽しみながら腹式呼吸や頭声発声などの技能を高める教材の選択が必要である。
- ・器楽では、個人の技能面に多少の差が見られるので、個別指導を取り入れる必要がある。一人一人の実態に応じた指導を工夫し、学習への意欲を高める。
- ・鑑賞では、表現活動と鑑賞を結びつけて学習を進めていく必要がある。

○ 具体的な授業改善に向けての方策

- ・歌唱では、自分の歌声に自信をもてるような言葉かけをし、指導の工夫をする。毎時間のめあてをわかりやすく児童に示し、楽しみながら技能を高める。
- ・器楽では、常に友達と関わり、聴き合うことで以前の自分より技能が上達していることを確かめ合い、認め合う環境を重視する。鍵盤ハーモニカやリコーダーは、習得に時間を要する場合があるので、休み時間や給食準備などの時間を使い、技能を高めていく。
- ・鑑賞では、表現活動に生かせるように、題材に適した適切な教材を生かし、鑑賞指導を行っていく。

【図 工】

○ 児童の状況

- ・図工に対する興味関心が高く、熱心に取り組む児童が多い。
- ・発想が豊かで、工夫を凝らして取り組む児童もいるが、中には自分の発想に自信をもてず、友達の作っているものを真似る児童が見られる。
- ・初めて使う道具がある時など、注意点をよく聞いて、友達同士確認しながら気を付けて取り組むことができる。
- ・毎時間制作を進める目安を示しているが、制作が遅れがちな児童がいる。理由としては、丁寧であったり、こだわりながら作っていたりするからである。

○ 指導についての課題

- ・狭い図工室の空間をじょうずに用いて安全で作業しやすい環境づくり、作品保管場所づくりをしていく必要がある。
- ・授業の中で終わるように教師の支援や友達の声かけを工夫していく。
- ・作った作品を他の人に見てもらえる機会が少ない。学級と相談して展示する機会を増やしていく。

○ 具体的な授業改善に向けての方策

- ・児童が自己の成長を感じられたり、良さに気づいたりするような題材設定をする。
- ・道具の基本的な使い方を覚えさせ、安全な使い方、場所の取り方などを考えて使うことができるようにする。
- ・図工室だよりでのできた作品の紹介や、図工のコンクールの紹介で、児童が認められる機会を増やし、自信をつけさせる。
- ・自己肯定感を高め、他の児童への参考となるように、発想豊かな作品は教師が授業のまとめで紹介する。また、図工室だよりでよい作品を作っている児童を紹介していく。

【家庭】

○ 児童の状況

- ・調理・被服等の実習には、興味をもち、進んで取り組もうとする。
- ・経験の差が大きく、用具の扱い方や準備・片付けなど、手際よく丁寧に扱うことができる児童がいる反面、友達に頼りがちな児童も多く見られる。
- ・家庭での仕事を日常的に行っている児童は半数に満たない。
- ・課題に対しては、どの児童も真面目に取り組むことができるが、さらに自分から調べたり、工夫して活動したりすることが苦手な児童もいる。

○ 指導についての課題

- ・調理・製作の実習において、完成時間に個人差ができ、早く終わった児童への課題提示や、時間内に終わらなかった児童への個別指導に工夫が必要である。
- ・家庭実践の課題については、家庭の事情もあるが、児童自身にはっきりとした目的をもたせ、進んで取り組めるよう学校での意欲づけに工夫が必要である。

○ 具体的な授業改善に向けての方策

- ・調理や被服実習においては、師範したり、絵や写真資料を使いながら説明をし、一つ一つの活動を確認させながら進める。
- ・活動に見通しがもてるよう、材料準備・製作手順等、計画の段階で一人一人に助言をする。また、実態に応じた資料を用意したり、グループでの教え合いを促したりしながら、基本的な技能が身に付くようにする。
- ・環境や安全を考えて材料を準備したり、調理や片付けをしたりできるよう、意識させて、取り組ませる。
- ・ねらいにそって自己評価や相互評価をしていくことにより、次の活動への意欲や自信をもったり、自らの課題を意識したりしながら、主体的に学習できるようにする。

【体 育】

○ 児童の状況

- ・ 体育が好きで体を動かすことが好きな児童が大半を占めているが、学習内容によって個人差が大きい。特に、走る、投げる、跳ぶなどの基本的な動作が十分とはいえない児童も多く、遊びや経験の差が原因と思われる。
- ・ 互いに教え合ったり、励まし合ったりできる児童が多い。
- ・ 体力・運動能力調査の結果から、20メートルシャトルランやソフトボール投げにおいて、数値が低い傾向にあることがわかった。

○ 指導についての課題

- ・ 苦手意識をもっている児童に対しても、意欲的に練習に取り組めるような支援の仕方について、十分に検討されていない。
- ・ 個人差を考慮に入れ、運動の特性を十分に生かせるような学習過程、支援の工夫を行うようにする。基本的な技能を重視し、高められるような工夫した指導を行う。

○ 具体的な授業改善に向けての方策

- ・ 各運動領域、単元については、単元の導入時に学習カード等により見通しをもたせ、学び方を理解できるようにする。
- ・ 低学年では、児童にとって易しい運動遊びを行い、運動の楽しさや喜びを味わわせ、その後の運動につながる感覚づくりを多く経験させる。
- ・ 中学年では、運動を楽しく行う中で、技能の習得や体力の向上を図る。
- ・ 高学年では、児童に自己の課題や集団（チーム）の課題をしっかりと意識させ、めあてを立てさせる。また、「体づくり運動」で意図的、計画的に体力を高める。
- ・ 体力テストの結果、児童の実態や発達段階に合わせた学習カードや資料などを作成し、各運動領域の指導に活用していく。
- ・ 5・6年の水泳指導については、一斉指導の後、泳力に合わせた指導を行い、個々の泳力の向上を図る。また、一人一人の課題に合っためあてを立てさせる。
- ・ 教室になわとび、ボール、フリスビー等を常時置き、児童が外で自由に使用できるようにし、投力、巧緻性の向上を図る。一学級一実践の取り組みや毎月の体育朝会を活用して、日常的に運動に親しめる環境作りに努める。

【外国語活動】

○ 児童の状況

- ・英語活動に対する興味関心は高く、真面目に取り組もうという意欲をもっている児童が多い。また、英語教室に通う児童もいる。
- ・大勢の人の前では緊張したり、恥ずかしがったりして、大きな声で伝わるように発言できない児童が多く見られる。
- ・人とかかわろうとする気持ちはあるが、うまくコミュニケーションをとれずに苦手意識をもっている児童が見られる。
- ・英語活動の歌やチャンツ、ゲームを好み、意欲的に参加できる。

○ 指導についての課題

- ・児童が活動で使う用具（例えば、お店屋さんの品物など）を用意するためには、他教科との関連を図り、時間を確保する必要がある。
- ・英語ノートにない表現など、児童の実態に応じた取り上げ方をどのように組んでいったらよいか、単元構成の中での語彙の扱い方がむずかしい。

○ 具体的な授業改善に向けての方策

- ・児童は慣れると、自信をもって活動できるので、朝の会などで英語を使って挨拶をしたり、英語の歌を歌ったりというショート时常時活動を取り入れる。
- ・歌やチャンツなど児童が楽しめるような1時間の授業構成をする。
- ・英語に抵抗感のある児童も参加できるようにALTの説明の後に、HRTが日本語で説明を補足し、全員が参加できる環境を作ることも必要である。
- ・ALTとHRTが役割分担しながら、個に応じた励ましや助言を与え、担任が授業の流れを作っていく。
- ・単元設定を児童の身近なものにすることで、英語でコミュニケーションをすることに抵抗をなくしていく。